

私がイオン誘致の窓口

平成19(2007)年、当時イオン(株)H専務から、携帯電話が入り今治新都市にイオンが進出したので私に協力してほしいとの連絡が入りました。これがイオン今治進出のスタートです。当時開発の責任者だったイオンモール(株)の顧問や担当者とともに、今治商工会議所など各種団体や関係先への挨拶回りにすべて同行を致しました。イオンは、この年に競争入札で現在の土地を取得しました。

しかし、リーマンショック後の経済が伸び悩んだことや、平成23(2011)年の東北大地震などの景気低迷などを理由に大幅に進出が遅れ、開業は平成26(2014)年春までに持ち越されました。

その年の6月7日、ようやく起工式が行なわれ、私も式典に参加させていただきました。そして、平成28(2016)年4月23日、イオンモール今治新都市がオープンしました。私も、オープン前植樹祭に当時イオン(株)H相談役と一緒に参加、一週間後のオープン式典にも参加しました。



▲開店前の植樹祭。イオン(株)H相談役と
▲イオンモール今治新都市起工式。イオンモール(株)顧問と

本宮いさむ

no. 121

発行 令和5年2月10日

連絡先
〒799-1527 今治市長沢甲 1045 番地 6
TEL0898-47-1393 FAX0898-47-1693

「加計学園問題」とは何だったのか?

平成26年7月、新潟市が国家戦略特区申請(獣医学部新設)し、国家戦略特区WGが約1年間の協議を経て、方向性を出しています。しかし、新潟市は準備不足もあり撤退。平成19年から獣医学部新設の構造改革特区申請を16回も行っていた今治市に、国から国家戦略特区申請に切り替えるようとの話がありました。マスコミは、新潟市の特区申請を報道しませんでした。このことを報道すれば、自分たちの嘘がばれてしまうからだと考えられます。

「石破4条件」とは何だったのか?

産経新聞掲載「加計学園 行政は歪められたのか?」上の記事には、「石破4条件により獣医学部新設は極めて困難となった。…中略:北村(日本獣医師政治連盟)委員長は獣医師会の会議で『大きな壁を作ってもらった』と胸を張った」と書かれています。

獣医学会の既得権益を守る「石破4条件」こそが問題視されるべきなのに、マスコミはなぜか無視しました。この問題の本質は、改革を阻止する政治家が政権内部にいたことなのです。

昭和58(1983)年、今治市の中央部から西北方向に向けて広がる山間部を開発しようとする「新都市構想」が立ち上がり、平成17年の正月、私は同級生になりました。ところが、この構想はなかなか前に進まず、手つかずの状態だったので、平成11(1999)年のしまなみ海道開通を契機に、この構想が動き始め、ようやく工事がスタートしました。

商業施設と大学の誘致が原動力

この構想には、企業や研究機関の誘致が必要不可欠だと私は考えていました。その中で「イオンモール今治新都市」、「岡山理科大学獣医学部」について私は関わり、多くの方々の努力と尽力によって誘致が実現したのも国に打診しましたが、少しも進展しませんでした。

このことによつて新都市の価値が上がったのもまた事実です。平成17年の正月、私は同級生府が平成28(2016)年と特区申請が続き、獣医学部開学を目指してきた私たちに、とつて、大きな喜びです。しかし、私たちの努力や経緯を知らないマスコミや野党は、加計学園理事長が安倍首相の友人だから、何らかの癒着があるはずだと騒ぎ出します。安部憎ませんでした。もし、癒着があるとすれば、学園誘致はもう少し早く進んでいたはずで、加戸前知事は、自著『日本の魂』に掲載された「加計問題の『無実』」に「私は今回の加計学園の学部新設は歪められてきた行政が正されたことだと考えています。こうした私の発言はこれまで真面目に取り上げられていないと到底思えません。安倍政権を追い詰めるという自分たちの思惑に目が眩んで、都合の悪い事実には目を向けず無理筋でも自分たちに都合の良い事実をつなぎ合わせてみたり、疑惑を手当たり次第に並べ立てているようにしか見えません」と、マスコミを非難しています。

「約36億円の土地を無償提供」の誤解

自治体と誘致する企業や研究機関の間で交わす契約書の場合、土地は便宜上の価格をつけるのですが、この土地は転売できないことになっています。契約書には「基本協定書が解除された時は、所有移転はその効力を失う」と解除された時には「学園の費用負担にて建物を撤去し、原状に回復したうえで市へ引き渡す」と明記されています。この土地は、使用できても財産としての価値はありません。

地元の動きは報道されなかった?

加戸前知事は、「加計問題の『無実』全て語る」で、「私は断言します。今回の加計学園の獣医学部は正当な手続きを経て新設されたものです。安倍総理の意向で行政が歪められたこともなければ、付度のかけらすらなかった。むしろ友達として冷た過ぎるのではないかとさえ思えることすらあったくらいです」と書き、今治市と愛媛県が獣医学部新設のために行ったきた努力に対して無視を決め込む、マスコミの「報道しない自由」を批判しています。

岡山理科大学獣医学部新設までの経緯

昭和41年	北里大の獣医学部(畜産学部)発足
昭和50年	今治市が大学誘致を目指す学園都市構想を表明
平成15年	文部科学省が獣医学部新設を認めないとする告示
平成17年1月	本宮勇が加計学園事務局長に誘致を打診
平成19年	愛媛県と今治市が構造改革特区を活用した獣医学部新設を提案
平成22年3月	鳩山由紀夫内閣で提案が「実現に向けて対応を検討」に
平成24年12月	第2次安倍晋三内閣発足
平成25年12月	国家戦略特区法成立
平成26年	国家戦略特区のワーキンググループ開始
平成26年7月	新潟市が獣医学部新設の特구를申請
平成27年6月4日	今治市が国家戦略特区を活用した獣医学部新設を提案
平成27年6月30日	政府が獣医学部新設の4条件(石破4条件)を定めた「日本再興戦略」を閣議決定
平成28年1月29日	愛媛県今治市が国家戦略特区に決定
平成28年3月24日	京都府と京都産業大が獣医学部新設を提案
平成28年3月31日	文部科学省などによる検討の期限
平成28年8月3日	地方創生担当相が石破茂氏から山本幸三氏に交代
平成28年9月16日	国家戦略特区ワーキンググループで新設が事実上決定
平成28年9月~	文科省内で「総理のご意向」などとするメモが出回る
平成28年11月9日	国家戦略特区諮問会議で、広域的に獣医学部がない地域に限り新設を認めるとの条件が追加。新設が決定
平成28年12月8日	日本獣医師会が1校に限るよう要請
平成29年1月4日	文科省と内閣府が、1校に限り認めると告示
平成29年1月20日	特区事業者に加計学園が決まる
平成29年5月17日	朝日新聞が「総理のご意向」などの文書の存在を報道
平成29年5月19日	文科省が、文書の存在を確認できずとの調査結果公表
平成29年5月25日	前川喜平前文科事務次官が「文書は存在した」と発言
平成29年6月15日	文科省が文書が存在したとの再調査結果を公表
平成29年6月16日	内閣府「総理のご意向」発言、否定
平成29年7月14日	京産大が獣医学部新設断念を表明
平成30年4月	岡山理科大学獣医学部、開学

構造改革特区申請を16回

マスコミは一切報道せず

石破氏は日本獣医師会に報告

愛媛県は10年間訴え続けたのに対して、こちらは1年。努力が足りなかった。(京都府知事談)

▲国会で語る加戸前知事。一部しか放映されなかった。

中村県政「新たなステージ」がスタート!!

4期目を迎えた中村県政では、最重要課題である西日本豪雨災害からの創造的復興はもとより、県民の安心・安全を守る「防災・減災対策」、少子高齢化をふまえた移住・定住の促進や結婚・子育て支援等の「人口減少対策」、実需の創出にこだわった「地域経済の活性化」の県政3本柱の更なる深化に努めるほか、新たな価値の創造に向けたDXの推進、農林水産物のブランド化、サイクリングを切り口とした地域振興、スポーツを通じた交流促進など、本県の持続的な発展につながる各種施策を積極的に展開されています。

私の属する会派は、中村知事とともに愛媛県を発展させていこうと考える同士の集いです。これからも、時代の流れや社会のニーズをしっかりとらえながら、前向きにチャレンジする中村知事に期待しています。



▲中村知事に今治地域の様々な施策を直接要望。



えかお みんなでつくろう、愛顔あふれる愛媛県

政策の三本柱

- 1 西日本豪雨災害からの復興と防災・減災対策
- 2 人口減少対策
- 3 地域経済の活性化

現下の社会情勢に対応するための基本方針

- 1 新型コロナウイルス対策
- 2 デジタル技術の活用

地方の時代に対する挑戦

政策課題への挑戦

継続課題への挑戦

見果てぬ夢への挑戦



反対する人の心理

物事を肯定的に捉えるか、否定的に捉えるかは人それぞれなのですが、否定的な発言が多い人は、いったいどのような心理状態なのでしょう？

心理学者によると、否定的な人には「自己愛が強い」「自信がない」「孤独である」といった傾向が見られるそうです。「自己愛が強い」人は、自分が正しいという根拠のない自信がありすぎて、自分の考えと異なる考えを否定する傾向が強くなります。また、「自信がない」人は、普通の話でも自分を否定された気分になり、反射的に相手を否定して自分を肯定する傾向があるのです。

また、妬みや嫉みが含まれていることもあり、嫌味や悪口などをいって、ケチをつけてくる人もいます。他人の足を引っ張りたい気持ちや、みじめな気持ちを打ち消したい思いから、周囲に非常に否定的な態度をとる人たちがいます。その場合には注意が必要です。

政治活動というのは、皆さんのお話を聞くことで成り立っています。否定ばかりしては話が成り立たず、信頼関係も生まれません。何をどのようにするか、そしてその影響や効果はどのようなものになるかをお伝えしなければなりません。

マスコミの印象操作をただ信じるだけで、自分の考えを持たない姿勢や、対案を持たずに反対することは、単なる揚げ足取りです。

私は、他の人と意見が異なる時には、自分の考えを整理し、様々な資料を集めて、間違いがないかを確かめます。そして、少しでも可能性があるなら、前向きに捉えて、どう実行できるかを考えます。

愚直に、真剣に、正しいと思う道を歩き、地域を発展させ、皆さんの生活を向上させること。それが私の政治家としての取るべき方法だと思えます。



1月5日

令和5年鏡開き式

県武道館・愛媛県スポーツ振興事業団が主催する「令和5年鏡開き式」が行われ、私が各団体を代表して「鏡開き」を行いました。



12月24日

中部方面特科隊銃剣道競技会

自衛隊松山駐屯地において『中部方面特科隊銃剣道競技会』が開催されました。



▲12月23日に着任された細川駐屯地司令と一緒に記念撮影

12月16日

意見書の提案説明

12月定例県議会の最終日、議員提案で「森林・林業基本計画の推進等に関する意見書」が提出されました。私が議会運営委員長をつとめている関係で提出者代表となつて、本会議場で提案説明を行いました。



1月23日

令和5年度当初予算方針説明会

県理事者(計11部局)による、我が会派への「令和5年度当初予算について(方針)」の説明会に出席。例えば、保健福祉部では約30人の理事者が出席、主な予算内容について説明を受けたあと、議論が戦わされました。この中で県民からの要望なども伝えます。



9:00~10:00	総務部
10:00~10:30	企画振興部
10:30~11:00	観光スポーツ部
休憩(10分)	
11:10~11:40	県民環境部
11:40~12:10	経済労働部
休憩(50分)	
13:00~13:30	警察本部
13:30~14:00	保健福祉部
14:00~14:30	土木部
休憩(15分)	
14:45~15:15	公営企業管理局
15:15~15:45	教育委員会
15:45~16:15	農林水産部